

4 太陽系と銀河系

Step
3

それぞれの惑星の特徴

- 地球型惑星・・・小型でおもに岩石からなるため密度が大きい。

① 水星



太陽系の惑星の中で、太陽にもっとも近く、もっとも小さい。

② 金星



地球のすぐ（内）側を回る惑星である。大気の主成分は（二酸化炭素）で、温室効果が生じて、その表面温は500°C近い。

③ 地球



太陽系の中ではただ一つ、表面に液体の（水）があり、生命が存在する。太陽系の惑星で最（大）の密度を持つ。

④ 火星



地球のすぐ（外）側を回る惑星である。液体の（水）があった痕跡があり、過去に（生命）がいた可能性が期待されている。

- 木星型惑星・・・大型でおもに気体からなるため密度が小さい。

⑤ 木星



直径は地球の約11倍、質量は約318倍で、太陽系の惑星最（大）の惑星で、60個を越す衛星をともなう。

⑥ 土星



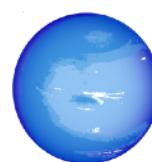
木星に次ぐ第2の大きさの（ガス）惑星であるが、平均密度は太陽系惑星でもっとも小さい。

⑦ 天王星



大気中のメタンが赤い光を吸収し、青い光を散乱するため、地球からは（青緑）色に見える。

⑧ 海王星



太陽からもっとも遠くにあるため、表面温度は-220°C近い。表面にメタンが多く赤い光をより多く吸収するため、（青）く見える。